

2月・3月のまめ知識を一部紹介します。



2月旧暦の名称 「如月」(きさらぎ)・「梅見月」(うめみづき)・「初花月」(はつはなづき)

「如月」・・・旧暦では今の3月頃。寒の戻りなどまだまだ寒く、衣をさらに着込むことから、「きぬさき衣更着」となった、などといわれます。

2月の誕生日花と花言葉

★ フリージア 純潔／無邪気

★ マーガレット 恋占い／真実の愛

節分・立春(2月3・4日頃)

★節分：春夏秋冬を区切る節目の日で、「立春」「立夏」「立秋」「立冬」それぞれの前日の総称です。季節の変わり目には、邪気が生じると考えられており、節分には災難を追い払う「追儺(ついな)」が行われました。本来、節分は年に4回あるのですが、今では春を迎える立春の前日を特に「節分」と呼び、厄を鬼にみたてた「鬼はらい」の様々な行事が定着しています。節分は、新暦では2月3日か4日になりますが、旧暦では年末か年始に当たります。古くは立春を年の初めとしていましたので、節分は大晦日になり、新春を迎えるために邪気を祓(はら)い、無病息災で一年を過ごそうとするお正月の風習でした。

★豆まき：「まめ」は「魔目」「魔滅」。鬼に豆をぶつけて追い出そうという意味です。

現在でも、節分には家庭や寺社で「鬼は外、福は内」と唱えながら豆まきをして厄除けし、幸せを願います。

- * 豆まき的大豆は必ず炒って、升(ます)に入れ、神棚に上げておく。
- * 年男、年女、厄年の人、または家の主人が豆をまく。
- * 夜、家中の出入り口や窓を開けて、玄関から順にすべての部屋で豆まきをする。
- * 豆をまき終わったら、福をにがさないように戸を閉める。
- * 自分の年の数、厄年の人は歳よりひとつ多い数の豆を食べる。(年取り豆)
- * 豆にお湯を注いでお茶にして飲む。(福茶)



★柗挿し：節分の日の夕方には、柗(ひいらぎ)の枝に焼いたイワシの頭を刺したものを戸口に飾る風習も(ひいらぎさし)あります。イワシの悪臭と柗のとげで鬼が退散する、という魔除けの意味があるそうです。臭気の強いニンニクを添える場合もあります。塩焼きしたイワシを食べる家庭や、関西発祥の、節分の日には太巻き寿司を食べる習慣が定着しています。その年の恵方に向かって、無言で丸かじりしながら願い事をすると夢がかなうとか。ちなみに今年2023年の恵方は南南東です。

★バレンタインデー(2月14日)とチョコレート

バレンタインデーといえばチョコレート、女性が男性にチョコレートを贈って思いを伝える、いうのは、日本特有の習慣です。1958年(昭和33年)に東京都内のデパートで、チョコレート会社がバレンタインデーにチョコレートの販促のキャンペーンを行ったのが、そもそもの始まりだそうです。

さらにPRをしようと、日本チョコレート・ココア協会などが2月14日を「チョコレートの日」に制定しています。「義理チョコ」が登場したり、年間のチョコレートの売り上げの4分の1はバレンタインデー用といわれるほど、バレンタインデーのチョコレートが定着しています。

日本人は、クリスマスやバレンタインデー、最近ではハロウインのように、異教の文化を本来の意味から離れた独自の行事にするのがお得意のようです。

3月旧暦の名称 「弥生」(やよい)・「桜月」(さくらづき)・「花見月」(はなみづき)

「弥生」・・・旧暦では春たけなわ、様々な春の花が咲く頃。草木が「いよいよ生い茂る」という意味の「いやおい」から変化した、などといわれます。

3月の誕生日花と花言葉

★ スイートピー やさしい思い出／恋のたのしみ／門出

★ チューリップ 思いやり／恋の宣言／博愛／名声

赤：愛の告白 紫：永遠の愛
黄：望みなき恋 ピンク：愛の芽生え
白：失恋・新しい恋 混色：美しい姿



★東大寺二月堂お水取り(3月12日)

3月1日から、修二会(しゅにえ)の本行が始まり、14日間にわたって華麗な水と火の行法(ぎょうほう)が行われます。もともと旧暦の2月1日から始まる本行でしたので、「修二会」と呼ばれ、二月堂の名の由来にもなりました。古くから「修二会が終われば春がやってくる」といわれるように、関西に春を呼ぶ行事です。本行では、練行衆(れんぎょうしゅう：修二会に参加する僧侶)が人々に代わりご本尊・十一面観音菩薩に懺悔し、すべての罪障の消滅と仏神の加護を願い国家の安泰を祈ります。修二会の中でも、著名な「お水取り」が行われる12日の夜(現代の時刻でいえば13日の早朝)には、通常より大きい松明(たいまつ)が上げられ、練行衆が閻伽井(あかい)から1年間の香水をくみ上げご本尊にお供えます。お水取りの儀式の後に達陀(だつたん)の行法が行われ、大松明を持った練行衆が本道の回廊を駆け回ります。参拝者は、この火の粉を浴びると無病息災でいられるといわれ、燃えさしを拾ってお守りにする人もいます。皆様も一度見に行かれてはどうでしょうか。